

ステークホルダーコミュニケーション

基本的な考え方

〈みずほ〉では、ステークホルダーの皆さまに対し、積極的、効果的かつ公正に情報を開示し、〈みずほ〉の活動が社会常識と調和し、公正かつ透明なものとなるよう努めています。

建設的な対話を通して、ステークホルダーの皆さまからの理解と信頼を確保するとともに、自らの企業価値向上、健全性確保、サービスの質の向上をめざします。



ステークホルダー	方針
お客さま P.101	サービス品質向上のため、お客さまの声を集約し、改善案を協議、実行します。
株主さま P.28	透明性の高い経営、持続的な成長を実現するため、適時・適切な開示、建設的な対話に努めます。
社員 P.49	経営陣と社員の対話等、経営陣・社員の双方の発信の機会を多く設ける事で、透明性の高い経営、一人ひとりがいきいきと働く事のできる職場の実現をめざします。
地域社会	自らの利益と社会の利益を調和させ、社会を支え、社会とともに歩む「良き企業市民」として、地域社会の課題やニーズに向き合いながら、社会貢献活動に取り組んでいます。
仕入先・競争会社	各種方針を整備し、公平・公正なビジネスを実践します。
政治・行政	金融業界の持続的発展のため、対話や活動を実践します。

〈みずほ〉におけるステークホルダー <https://www.mizuho-fg.co.jp/csr/communication/mizuho/index.html>

事例 地域社会とのコミュニケーション

社会貢献活動の取り組み

〈みずほ〉では、新小学1年生の交通安全を祈念した黄色いワッペン贈呈事業を1965年から続けています。これまで累計約7,082万枚のワッペンを贈呈しました。59年目となる2023年、全日本交通安全協会より「第63回交通安全国民運動中央大会」にて交通安全協力企業として感謝状を受領しました。



大手町タワーでの交通安全教室の様子

金融経済教育の取り組み

2022年度は、コロナ禍で強化したオンライン授業や非対面用教材の活用に加え、従来型の対面授業を再開する等、金融経済教育の対応力を一層強化しました。夏休み期間に開催した子どもサマースクールでは、当社グループ営業拠点での対面授業と、オンライン授業を実施し、1,000名を超える子どもたちが参加しました。



営業拠点での授業の様子

TOPIC

スポーツ協賛を活用したブランドコミュニケーション

〈みずほ〉では、多くのステークホルダーに向けたブランドコミュニケーションの一つとして、スポーツ協賛を活用した活動を行っています。

サッカー日本代表を中心に、柔道日本代表、ブレイキン日本代表、パラスポーツ等を支援しています。2022年度は、サッカー日本代表を応援するTVCMの発信や社員によるパブリックビューイングやサッカー教室等を実施しました。



社員とその家族を対象にしたサッカー教室